

2) 洪水吐の補修

ため池の洪水吐の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

【活動のねらい】

ため池において、洪水吐にひび割れや、大きく欠損しているなどの破損がみられた場合、当該部分を補修することによって、洪水吐の放水機能の維持を図ります。



老朽化した洪水吐

【活動の内容】

2-1) 計画

洪水吐にひび割れや、欠損などが目視にて点検します。その点検結果に応じて、対策方法を検討します。

ひび割れの一般的な補修方法としては、Uカット工法や表面塗布工法、樹脂注入工法等が考えられますが、施設管理者や関係機関及び専門業者等に十分に相談し、対策工法を検討します。

部分的に欠損している箇所は、モルタルを塗り込んで補修することが考えられますが、必要に応じて型枠を設置し、コンクリートを流し込むことも考えられます。

2-2) 実施

ひび割れに対して、Uカット工法を用いる場合は、コンクリートのひび割れ上にディスクグラインダー（携帯型研磨機）を使用してU字状にカットします。カット面をきれいに清掃し、必要に応じて接着剤（プライマー）を塗布します。カット部分に、コーキングガン等を使用してシリコン樹脂系補修材等をシーリング材として充填します。



洪水吐の補修

欠損部分にモルタルを塗り込む場合は、ハンマーやタガネ等を使用して脆弱部分を取り除いてから、ワイヤーブラシなどで欠損部表面をきれいに清掃します。接着表面に接着剤（プライマー）を十分に塗布した後に塗り込みますが、欠損部分が多い場合、一度にモルタルを塗り込むと、固まった後にはく離することがあるので、2～3回程度に分けて少しずつ穴を埋めるようにして補修します。

型枠を設置する場合は、コンクリートの重さで型枠が壊れることがないように強固に組み立てます。また、型枠はコンクリートが十分に硬化してから取り外すことに留意が必要です。

2-3) 確認

経年変化によって補修部分に充填した材料が劣化して漏水したり、気温の変化による伸縮の繰り返しなどからはく離したりすることもあるので、適宜、目視にて確認します。

【配慮事項】

- ・作業に当たって道路を占有するときには、事前に関係機関（所轄警察署等）へ相談し、必要な手続きなどを行います。

【洪水吐の補修】

～活動例～

○洪水吐の欠損部分の補修

・対象施設

洪水吐

・活動内容

ため池を点検したところ、洪水吐の底版コンクリートが欠損していた。そのため、モルタルを欠損部分に埋め込んで補修した。

・活動時期

12月

・参加者

水土里ネットの指導のもと、農業者3名